

普及活動情勢報告（令和 2 年 7 月分）

中央西農業振興センター高知農業改良普及所

スマート農業の実現に向けて ～ユズにおけるドローン防除実証試験散布～



ドローン散布前に操縦士による説明を聞く参加者

令和 2 年 6 月 22 日、土佐山地区の現地ユズ園 4 カ所において、高知市ゆずスマート農業検討協議会主催によるドローンの航空防除試験が実施され、生産者など 29 名が参加しました。

普及所は、この防除試験に計画段階から参画し、試験園の決定、ドローン操縦士や園主との調整、試験日の決定などを行いました。

普及所では、同じ園であと 4 回ドローン防除を実施し、病虫害防除効果を評価する計画です。

環境制御技術アドバイザーによるサポート事業の活用 ～シーズンを通しての振り返りと次作へ向けての検討～



次作に向けた検討

JA 高知県春野キュウリ部会では環境制御技術アドバイザーによるサポート事業を活用し、これまでにモデル生産者の現地個別面談、現地検討会及び意見交換会を実施してきました。

6 月 24 日に、モデル生産者と関係者が集まり、シーズンを通しての振り返り会を実施しました。普及所は生育・環境データ等を準備し、アドバイザーからは栽培中のポイントや改善すべき点について助言がありました。モデル生産者は生育状況、環境データ等を見る化したことで新たな気づきがあり、課題が明確となったことで次作に向けた改善策を見出すことができました。

普及所は、次作でも産地全体への環境制御による増収効果の拡大を目指し、JA と連携して支援を行っていきます。

作業改善に向けて点検とルール作り ～七ツ刈筍加工組合 HACCP 研修会～



作業ごとにビデオで確認

6 月 26 日七ツ刈筍加工組合において、HACCP 研修会(14 名参加)を開催しました。

普及所は、事前に撮影した筍加工作業のビデオをもとに、衛生管理について、課題の洗い出しや改善に向けたルールづくりを支援しました。参加者からは「殺菌作業を行う際は、高温作業になるので、隣で加工作業をしている人に声かけをする」などの安全衛生面も含めた、積極的な意見が出されました。

今後も、関係機関とともに四方竹についても HACCP の手法を用いた衛生管理手順書作成について支援を行います。

次作に向け取組を話し合い ～JA 高知県春野ニンニク反省会の開催～



今作の概況を確認中

JA 高知県春野では、施設キュウリ等との複合経営品目として、ニンニク等について検討しています。7月3日に、グリーンはるのでニンニク反省会が開催され、生産者3名が参加しました。

JA から今作の生育や販売状況等を、また普及所から各品種の特徴や品質低下(2次生長)の発生要因等について説明しました。生産者は今作の状況を振り返りながら、次作の安定生産に向けての取組を話し合いました。

普及所は、今後の取組や改善策の検討・実施に向け、JA と連携して支援を継続していきます。

3 地区に分けて普及活動を紹介 ～第1回高知地区普及推進協議会～



「具体的にはどんな事？」など詳細な協議

7月6, 7, 10日、第1回普及推進協議会を新型コロナウイルス感染症対策のために3地区に分けて開催しました。

今年度の普及活動計画の説明や、基盤整備事業、人・農地プランの実質化について、普及が支援していく取り組みを説明。併せて、各地区に応じたトピックスとして、スマート農業等の紹介を行いました。人数やテーマを絞った分、参加委員にはより深い協議をして貰えました。

普及所は今後も農家や関係機関の意見を聞きながら、現場の課題解決や、産地の将来に向けた前向きな取り組みを進めていきます。

環境制御技術と GAP の推進 ～トマト部会反省会～



トマト炭酸ガス施用ハウスの様子

7月7日に春野トマト部会が、JA 高知県春野営農経済センターでR2 園芸年度栽培反省会を開催し、6名の生産者が参加しました。普及所は炭酸ガス施用の効果や使用上の注意点等を説明しました。また GAP の現地取組事例をもとに、リスク管理や整理整頓することの必要性などについても説明をしました。参加者からは、「炭酸ガス施用の効果について理解できた」や、「導入を考えている生産者の参考になる」といった反応がありました。

今後も普及所は産地に適した技術の普及や、よりよい農業を実現するため GAP を推進していきます。

なぜ今 GAP が求められている？ ～GAP 研修会開催～



みなさんのほ場にリスクは
潜んでいませんか？

JA 高知市潮江支所技術研修会(7 月 7 日)および高知市認定農業者
連絡協議会総会(7 月 8 日)において、普及所は GAP 研修を実施し、
それぞれ生産者 16 名、10 名が参加しました。

研修会では、近年 GAP が求められている理由やリスク管理の重要
性、実際の現場での取組事例等を紹介し、身近な所から GAP を意識
できるように話を進めました。参加者からは、GAP 認証の種類、指
導員資格についてや、「GAP が付加価値ではないという意識付けを
どのように進めていくのか」といった質問がありました。

今後も普及所は GAP について呼びかけ、環境・労働など多方面で
持続可能な農業の普及・推進に取り組んでいきます。